

五大都市選挙情勢と兩岸関係への影響とは

｜ 頼怡忠

五大都市選挙情勢は総統選の前哨戦

2010年11月27日の五大都市選挙では、台湾の人口のおよそ6割の人が有権者となる。また、2012年の総統選挙までに他の選挙が行われる予定がないため、一般的に今回の選挙が総統選挙の前哨戦と目されている。さらに、馬英九氏が総統に就任後、国民党は立法委員の補欠選挙はもとより県知事・市長選挙でも連敗を喫しているため、今回の五大都市選挙を軽視するわけにはいかない。

総統選挙の前哨戦という側面のほか、今回の選挙は中央政府の権力分配に影響を与えないものの、選挙結果が与野党の間や各政党内部における派閥権力に盛衰をもたらすことは間違いない。馬英九政府による兩岸関係政策には今なお重大なテーマが存在する。中国政府は五大都市選挙の結果如何によって対台湾政策を調整してくるであろうし、国民党と民進党の勢力が逆転するようなことになれば、馬政府の将来の兩岸政策に影響を与えることにもなるであろう。

台湾内部の権力論理

五大都市選挙の結果は台湾における政党の力量がどれだけ上下したかを示すバロメーターとなる。例えば、仮に国民党が台北市・新北市・台中の3都市で勝利し、民進党が現職の台南市・高雄市を維持した場合、民進党が総得票率で国民党を上

回っていたとしても、一般の人々は国民党が勝利した、と見なすであろう。そうなった場合、馬政府は台湾民衆による信任を得たと解釈し、国民党内部における馬英九の権力もより安泰となるのだ。もちろん反対に、民進党主席は選挙の責任を負って辞任の圧力に晒されることにもなりかねない。

もし、民進党が3都市もしくは4都市で勝利をおさめた場合、その結果はこの2年間における馬英九政府の政策に民衆の不信任が付きつけられたと解釈されるであろう。となると、政策推進の正当性は大きく失われ、国民党内部での馬英九の権威は危うい。そればかりか、国民党・新党・親民党の協力体制の瓦解にまで発展するかもしれない。恐らくは、敗戦という「好機」に乗じて、まず先に国民党内部で馬英九に不満を持つ勢力が蠢き始めることになるだろう。

五大都市選挙に対する中国政府の関心と考えられる反応

五大都市選挙の結果は与野党の勢力バランスに影響を与えるため、中国政府にとり、対台湾戦略に影響を与えかねない。ここ2年間、中国政府は、国民党と共産党の関係を基礎として、国民党を掌握しつつ台湾の将来の方向性に影響を及ぼしてきた。こうした関係は中国と国民党が「一蓮托生」の関係になることを意味する。もし国民党が2012年の選挙で政権を失うこととなれば、中国政府は2008年～2012年までの対台湾政策で築き上げた

成果が、民進党によって再びひっくり返されることを恐れている。

仮に五大都市選挙で国民党が3勝を挙げれば、中国は経済面ではご褒美をくれる代わりに、馬政府に対し、政治的には「一つの中国」原則に背かない姿勢を貫くことを要求するであろう。反対に五大都市選挙で国民党が敗れた場合、前述の通り、中国は2つの全く異なる反応を示すかもしれない。

中国政府は馬政府が2012年の総統選挙で政権を維持できるか疑いを持っているようだ。そのため、対台湾政策の軟化を加速させるであろう。例えば、より一層多くの中国人観光客を台湾へ送り込み、「一つの中国」の原則を維持しつつ、台湾が国際的に認知される機会を増やすだろう。さらに、福建省沿岸に設置している対台湾用のミサイルを撤去して善意を示し、中国と良好な関係を保つ国家に対し、台湾と自由貿易協定の交渉を開始させるかもしれない。これらの事柄は、馬英九にとって総統選挙前の得点になり、再選の可能性も高まるにらんでいるのであろう。

しかし、中国は馬英九が政権を維持できない可能性も視野に入れ、2012年に民進党が再び政権の座につくことも考慮していると思われる。その場合に備え、残された時間を使って馬政府に圧力をかけ続け、もし民進党が再び政権を握ったとしても、統一へのロードマップをひっくり返せないようにしていくであろう。同時に、国民党の内紛に介入し、将来の国民党を担う新リーダーを早々と手なずけて持ち駒とし、さらに民進党各派との交流を深めることで、民進党の対中国政策に影響力を拡大させるように図っていくであろう。また、中国が、米国とも台

湾海峡問題について意思疎通を図り、2003年～2008年の「連国制民、経美制台(国民党に民進党を抑えさせ、米国に台湾を抑えさせる政策)」の戦略時に逆戻りすることになれば、手の施しようがなくなる恐れもある。

国民党が五大都市選挙で敗北したら、馬英九は兩岸問題にブレーキをかけるのか？

もし五大都市選挙に敗北した場合、再選の基盤崩壊を防ぐため、馬英九は兩岸政策の推進にブレーキをかけるとみられている。しかしながら、もし馬英九自身が過去2年間の主要な政治的功績が兩岸関係にあるとみなしているのであれば、いったんブレーキをかければ、それは馬英九が自身の兩岸政策に誤りがあったと認めることになるだけでなく、再選を目指す総統選挙で自身に向かってくる両刃の剣にもなりかねない。馬政府はこれまで、県知事、市長および立法委員の補欠選挙に敗れた際も、敗因は国民党の勢い不足だと責任を転嫁してきた。そのため、今回の選挙を前にブルー陣営とグリーン陣営の対立が激化するに連れ、「基本に戻り、熱烈なブルー陣営支持者動員」戦略を進めている。こうしたことから、選挙戦における兩岸関係の加速やヒートアップが予想され、ブルー・グリーン両陣営の国家アイデンティティや兩岸関係政策の対立も激化するとみられる。

五大都市選挙は確かに中央政府の選挙ではなく、立法委員の議席数が上下するわけでもない。ただ、選挙結果はこれまでの「ブルー陣営vsグリーン陣営」という政治構図の地殻変動に直結してお

り、識者の間では、馬政府は選挙結果を踏まえて内閣改造を行い、再選を目指して「戦う」内閣を目指すだろうとされている。中国と馬政府にとって、今回の選挙結果に対する解釈と反応が、選挙後の两岸関係発展のカギとなる。国民党が3都市で勝利すれば、現状から大きく変わることはないであろう。しかし、2都市以下の勝利にとどまったとすれば、中国は「軟化政策をより軟化」させるか「硬化政策をより硬化」させることとなり、馬政府にとっても两岸政策に「ブレーキをかける」のか、それとも「加速暴走」となる可能性も否定できない。これらの相互作用の結果、劇的な変化が起こることは十分に考えられる。BT